

キャラクター名

プレイヤー名

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	5
サポートクラス	ニンジャ	Lv.1:	ハンター	性別	女
称号クラス				年齢	享年12歳
種族	レムレス			境遇	
出自 (効果)	帰還			目標	

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	16	9	9	13	20	6
ボーナス	2	5	3	3	4	6	2
クラス修正	0	2	2	1	1	0	0
他修正							
能力値	2	7	5	4	5	6	2

HP	56
MP	61
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ソードブレイカー	至近	0	16	0	1	0	-4	0
左手	ファインウィップ	至近	-2	17	0	0	0	-4	0
頭部	黒頭巾				1	1			
胸部	異界の霞鎧				1	3	5		
補助									
装身具	アトムリング								
能力値			7	0	5	0	6	10	7
スキル			2						
その他			1					1	
総計(右)			10	16					
総計(左)			8	17	7	5	11	3	7
総計(両)									m
ダイス数			3 d	3 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	7			7	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
バックパック	MPポーション
ベルトポーチ	MPポーション
ポーションホルダー	MPポーション
-----↓収納↓-----	MPポーション
MPポーション	MPポーション
MPポーション	MPポーション
MPポーション	MPポーション
MPポーション	MPポーション
MPポーション	
-----↑収納↑-----	漆黒の星
MPポーション	

現在重量:	10	所持金:	12861	預金・借金:	
最大重量:	27				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アストラルボディ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 装備、および携帯品の重量制限を【精神基本値】に変更する								
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中		
効果: 武器攻撃を行う。2体以上を対象に取ったらダメージ+[SLx2]								
インタラプト	★	-	効果参照	-	単体	-		シナリオ回
効果: 「タイミング:パッシブ/アイテム」以外のスキルが宣言された時、その発動を打ち消せる。								
シャドウストーク	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 移動やエンゲージを行っても[隠密]状態が解除されない								
アンビテクスタビリティ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		鞭・短剣装備
効果: 両手の装備の攻撃力・修正値・重量などを合わせ、「装備部位:双」の武器として扱う								
シャドウブレイド	3	6	マイナー	-	自身	自動		短剣使用/隠密
効果: 白兵攻撃のダメージ+[SL*10]								
AM:狩猟	★	-	パッシヴ	-	自身	-		狩猟使用
効果: 命中判定+1D								
ハンターウェポン	2	-	アイテム	-	効果参照	-		
効果: 武器を[SL]個選択、選択した武器に「種別:狩猟」を追加、「重量:+2」「攻撃力:+3」「行動値修正:-1」を加える								
ギガントウェポン	3	-	アイテム	-	効果参照	-		
効果: 「種別:狩猟」武器の「重量」「攻撃力」に[SL*2]、「行動修正」に-[SL]								
コンシールアタック	1	-	パッシヴ	-	自身	-		隠密
効果: 命中判定+1D、DR+[SL]D								
フェイドアウト	★	10	セットアップ	-	自身	自動		CL5以上
効果: [隠密]状態になる。敵とエンゲージしていても発動可能								
スタイル:ヤエガキ	1	-	パッシヴ	-	自身	-		鞭使用
効果: DR+[SL]D、命中+2								
ファインドトラップ	1							
効果:								
フックダウン	1	3	クリンナップ	-	自身	自動		
効果: 「種別:ポーション」のアイテムを1つ使用する								
トレーニング:精神	1							
効果:								

パン一斤の幸福は私にはあまりにも過ぎた毒だったのです。

明日のパンもないような水ぼらしい孤児院の底で、いつ死ぬかも分からない私を捨ててくれたのはあの人でした。何故私を捨ててくれたのか、その人……いえ、旦那様に理由を聞くと「死んだ娘に似ていたから」と答えてくれました。私は自分の命が可愛くて、明日の我が身が惜しくて、その人に誘われるまま拾われたのです。私のような子供は他にもいました、名前と顔を知るようなものもないわけではありません、「親友」や「家族」と呼べるものだっていました。だけど私はそれらすべてを見捨てて、ともに行こうとも言わず、自分だけが偶然的幸福を享受しようとしたのです。

我が儘を言って、旦那様に嫌われてしまう事が恐ろしかったのです。そんな私を彼らは羨ましく、だけど執着せずに見送ってくれて……それが私の背に罪悪感として募りました、だからせめてもの贖罪に、パンを……ええ、毎日旦那様に隠れて、少しでもパンを孤児院に送っていました。毎日お腹いっぱい旦那様が食べさせてくれるご飯の中から、パンを全て孤児院へと送りました。

……ええ。でも違うんです、間違えました、私はその食料を独り占めするべきでした。何も考えず、自分のためだけに食べ尽くすべきでした。

「金の虫」と呼ばれる恐ろしい病が流行りました。何故か裕福な家庭でのみ発症する、身体が内側から骨ごと腐り落ちてしまう不治の病です。灼けるような激痛を伴い、病死する前に自ら命を断ってしまうほど。治療には貴族でも難しいような大金と時間を積み、それでも5割助かるかどうかというところでした。旦那様もその病に侵され、必死に治療法と原因を探しました。……その後、偉い学者さんが病の正体を突き詰めた時には何もかも遅かったんです。

